



自ら動き、感じ、楽しむ
～笑顔あふれる幼稚園～

NO. 3 令和5年7月20日発行
山口大学教育学部附属幼稚園
URL: <http://www.ymg-kg@yamaguchi-u.ac.jp>

1学期間、たくさんのご協力をいただき、ありがとうございました。

入園、進級から早4か月が経ちました。保育参加や親子遠足、ピーマン Jr.の会、幼稚園まつりなど、様々な行事へのご協力をいただいたおかげで、子どもたちは楽しい1学期を過ごすことができました。また、日々の送迎や引き渡し訓練など、子どもたちの安全のためにご理解ご協力頂きありがとうございました。2学期もどうぞよろしくお願いいたします。

夏っていいね♪(花組)

花組が春に植えた夏野菜もグングンと育ち、夏の昆虫も大きく成長し、野菜や昆虫たちも春とは違った姿を見せています。6月末に「先生！カブトムシの幼虫が・・・こっち来て！」と手を引くAくん。「なんか、黒いのが動いてた。」と幼虫の入った飼育ケースをじーっと見ました。保育者とAくんは目を合わせて「今、動いたね。」「うん。」と確認して「生まれたかもね。」と話していると、近くにいたBちゃんとCくんも「何か動いたん？」と見に来ました。数人に集まり飼育ケースをひっくり返すと元気なカブトムシが動き出しました。目を丸くしている子どもや、満面の笑みを見せる子どもなど、嬉しさとビックリが一度にきて言葉にはならなかった様子の子もたち。保育者が「カブトムシになったね。嬉しいね！」と言うと、「やった～」とジャンプしながら喜んでいました。そして、大きくなったらエビになると言っていた子どもたちと「エビじゃなかったね。」と笑いながら話しました。それからは、登園すると「先生、カブトムシがお腹すいてる。」とカブトムシの様子を気にしながら、昆虫ゼリーをあげてから遊び出すのが日課になっている子どもたちです。

そして、自分達が育てた夏野菜も毎日チェックしている子どもたち。「先生、今ピンク色になったトマトがあるよ。」「先生、トマト赤くなっているけど、まだおいしくないからもう少し待たないといけない。」「大変！大きくなっていくキュウリがない・・・」など毎日食べごろまでが待ち遠しい様子でしたが、ついに7月に入って花組第一号のキュウリを収穫しました。Dちゃんが「おいしくなあれって水あげたから絶対おいしいキュウリだよな。」「早く食べた～い」という声もあって、1本しかないキュウリでしたが、キュウリの塩もみでいただきました。「めっちゃおいしいね。」「まだ食べたいね。早く大きくならないかな。」と次への期待がさらに膨らんで、なっている小さいキュウリを数えに行った子どももいました。自分達で育てた野菜は、格別においしかったようです。幼稚園まつり一週間前に、「お祭りは、花火があるよね?」「花火

が見たい!」と言う声もあり、ボディーペイントしたダイナミックなアート作品を花火に見立てて、保育室の壁面に飾りました。お祭り前日に、オクラが2本収穫でき、そのオクラも活かしオクラスタンプを楽しみました。「星の形だね。」「押しながら動かすと、流れ星みたいになるよ。」とオクラの形も楽しみながらスタンプしました。それも花火と一緒に飾り、一気にお祭り気分になった花組さんです。

1学期は、夏らしいことがたくさん経験できて、子どもたちもたくさん楽しい経験をしたことと思います。その楽しい経験の積み重ねが友達といくと楽しいなという気持ちにつながっていけばと思っています。段々友達が身近になっている花組さんです。2学期の成長も楽しみに、また夏休み明け会えるのを楽しみにしています。(尾川)

もう、一学期が終わっちゃった…(風組)

「もう、一学期が終わってしまう。」と考えると、年度当初、「馴染みが無い私が担任と知って、泣けたらどうしよう。」と、ドキドキしていたことを思い出します。それと同時に、初日から元気いっぱい声で「先生、おはよう。」と、名前を呼んでくれたAくんや、風組になったと嬉しそうに胸を張るBくんの表情、不安な気持ちを、花組のときからの人間関係で支え合うCちゃんとDちゃんの姿など、子どもたちの姿がたくさん思い出されます。一年が終わるのかなと勘違いしてしまうほど、いろいろなことがありました。

風組で、人生で初めてのクラス分けを経験した子どもたち。毎年、両クラスが行き来できるように環境の工夫をしますが、今年は例年以上に、クラス関係なく遊ぶ姿が多かったです。お帰りのときに隣のクラスに座っていたり、机の上のつくりかけの作品の持ち主を探していると「それ、Eくんだよ。」と、隣のクラスの友達の分でも誰がつくったか知っています。また、カナヘビやカブトムシのお世話も、両クラス分気にかけていたり、隣のクラスで楽しそうなことが始まると、自然とその遊びが好きな子どもたちがどちらのクラスからも集まってきたりします。いまだに、「自分のクラス知ってるよね?」と思ってしまう瞬間があるくらいです。子どもたちの仲の良さが伝わりますし、友達のしている遊びに自然に入っていくことができる人間関係があるということだと思えると嬉しいです。

一方で、友達との距離が近い分、自分の思いややりたいことと、友達と一緒に遊ぶ楽しさとの間で葛藤する姿もありました。「ドレスを着てない人は、入れないよ。」「私は、ドレス着てないけど三つ編みをつけるからプリンセスだよ。」とか「ここは、警察署だから警察しかダメ。」「泥棒になりたいのに。」とか「それ、僕たちが使ってたのに。」「僕たちが最初に使ってたんだよ。」とか、怒って言い合いになることもしばしば。子どもたちは、それはもう本気で怒っているのですが、保育者としては「言葉で伝えてるんだよな。」と、いつも感心してしまいます。それぞれが、自分の思いを言葉にしている、言い合いの場面でさえ愛おしいのです。また、ある場面の子どもたちに対して、保育者が「先生は、それをされたら嫌だな。」と伝えると、「僕は、先生の話が長いのが嫌だ。」との返し。「それはごめんなさい。」としか返す言葉が見つからない、ということもありました。

初対面に近い関係だった人たちが、友達や保育者に対して、言いたいことが言える関係になってきたことが、一学期の育ちだと感じています。友

達が大好きで、誰に対しても壁をつくらないところが風組さんの素敵なところ。これからも、自分の思いや気持ちを表現することを大切にして、過ごしていきたいと思います。そして、少しずつ相手の気持ちに気がつくようになっていく2学期にしたいです。(中原)

わっしょい! 星組のおみこしができるまで(星組)

幼稚園まつりが近付く中、星組の子どもたちと“おみこしをつくろう!”と話をしました。おみこしてなあに…?という子どもたちの声が始めは多く聞かれましたが、「わっしょいわっしょい!」って星組のみんなで作って歩くんだよ、今度のおまつりで披露するよと話をすると、少しイメージがわいたような…。翌日、屋根をつけた土台のおみこしを見せると「これ持つの?」「大きいね」「重たいかな」と興味津々。さっそく「どんなおみこしにしようかな」「どんな飾りがいいかな」と星組みんなで作戦会議を開きました。その中で多く聞かれたのは「好きなものを飾りたい」という声でした。「作った人形を乗せたい」「できるようになった折り紙の星を貼りたい」「ポケモンの人形を作るの?」「絵をかくのもいいかも」など…たくさんのアイデアが出ました。子どもたちのそんなアイデアやイメージが形になるように手助けをしたり、素材や道具を用意したりしながら毎日少しずつ飾っていきました。“キャラクターの人形が作りたい」という思いをもった子どもたちには、キャラクターのイラストやいろいろな色の布ガムテープを用意し、その思いが叶えられるようにしました。始めは関心が向かなかった子どもも少しずつ飾られていくおみこしを見て、自分もなにか飾りたいと手作りの好きなキャラクターの人形を持参したり、友達の飾りを見てイメージがわいたのか関連する絵をかくて貼ったり…幼稚園まつりが近づくに連れて楽しみや期待感が高まるのと同様におみこしの飾りも増えていきました。飾った土台に棒や紐を取り付け、いよいよおみこしの完成!これがおみこしかあ〜これを持つのか〜と子どもたちも実物を見てやっとイメージがもてた様子でした。さっそくみんなで持ち上げてみると「思っていたより軽い!」との声。自分の体より大きいおみこしはさぞ重たいに違いないと思っていたのでしょ。すると「みんなで持っているからじゃない?」との声が聞かれました。“みんなで”という思いや意識があり、力を合わせるからの良さをその子どもなりに感じているのだなあと感じ、嬉しく思いました。「本当ね。きっとみんなのパワーだね」「幼稚園まつりで見せるの楽しみだね」と声を掛け、当日を迎えました。たくさんのおうちの方や年下の友達に披露し、終わった後の顔は達成感でいっぱいの様子でした。クラスのみんなで一つのものでつくり上げ、友達と一緒にやり遂げたこの経験が2学期以降につながっていくことでしょ。

いよいよ夏休みが始まります。夏にしかできない経験やご家族での時間を大切に楽しい夏休みを過ごしてくださいね。また2学期に子どもたちの笑顔に会えること、楽しいお話がたくさん聞けることを楽しみにしています。(中野祐)

